

リハサロン祖師谷

河野礼子

施設長



☎ 03-3482-3082

🌐 reha888.com

🏠 東京都世田谷区祖師谷6-5-8-102

### ビジョン

あきらめなければ変えられるケアや社会を目指しています。「できない」を「できる」へ変える「対話型リハビリ」で改善の連鎖を目指す「カタリスト」は、それぞれの思いをつなぎ、共に生きる未来を信じて進みます。

世田谷区祖師谷でリハビリ型デイサービス「リハサロン祖師谷」を率いる河野礼子施設長。大企業勤務を経て介護の現場へ飛び込み、認知症ケアのあり方に疑問を抱いたことが、現在の取り組みの原点となりました。外出支援リハビリや“スローショッピング”といった独自の実践は、「できないこと」ではなく「やりたいこと」に焦点を当てる支援です。デイサービスの枠を超え、街全体をリハビリの場に変える挑戦。その背景にある河野礼子の想いと哲学を紐解きます(2026年2月取材)。

## 「認知症ケア」と「本人希望のリハビリ」を見つけた現場の矛盾

### 河野さんのこれまでの歩みを教えてください。

私の原点は、小児喘息と向き合い、自宅で静かに過ごした幼少期にあります。自由に出歩けなかった分、本の世界や庭での空想が豊かな想像力を育んでくれました。

当時、心の中には「なりたい自分」が数多くありましたが、保守的な家庭環境もあり、家族の望む道とは距離がありました。看護師、獣医、女優……。ことあるごとに反対されましたが、根底にある「命を支える現場への憧れ」や、相手に合わせて自分を演じ分ける現在の看護職のスタイルには、当時の純粋な思いが形を変えて生きていると感じます。



### 社会人時代は、現在とは異なる商社で働かれていたそうですね。

両親の願いに寄り添うように短大へ進み、卒業後はバブル景気に沸く商社で約7年間、事務職として働きました。

当時はいわゆる「寿退社」が当たり前の時代。人事の中で社会保険や税の手続きをする中で、弁護士だった祖父の影響もあり「制度は解釈次第で人を救える」と考えていた私は、制度の解釈を探り、「できません」と即答せず、内規を提案してでも希望を叶えようとする少し変わった社員でした。この「解決策を諦めずに提案する姿勢」は、今の活動の礎になっています。



## その後、リハビリや介護の重要性を痛感する決定的な出来事があったとか。

社会人4年目に遭った交通事故です。嫁入り前の適齢期に「一生歩けないかもしれない」という瀬戸際に立たされ、「リハビリをしないと歩けなくなる」と専門職から急かされ、歩けない自分を否定されたのが耐えられませんでした。患者の立場になると、当たり前という言葉さえ強い拒絶反応に変わるんです。「あなたのリハビリは受けたくない」と転院を選んだこの経験が、現在の「本人希望のリハビリ」という哲学の原点になりました。

その後、結婚退職し、3人の育児をしながら子供の喘息による入退院への付き添い、さらに義母の在宅介護を同時に担う日々を15年過ごしました。人生の大半を「家族」として病院の現場で過ごしてきたからこそ、医療や介護の矛盾には誰よりも敏感でした。専門職の知らない「領域外」の苦悩を見続けてきた経験が、私を突き動かす原動力となっています。

## 世田谷区で実現した「行きたくない人」のためのデイサービス

「専門家よりも現場を知る家族」だった河野さんが、ご自身で施設を立ち上げるに至った決定打は何だったのでしょうか？

15年以上心原性脳梗塞後の義母の一人暮らしを近くに家を買ってまで見守りましたが、心疾患からの入退院の繰り返しと、認知症と失語症への介護に振り回され、本当に限界を感じていました。病状が進む度に介護に呼ばれ、関わりと生活が整い戻る、その終わりのないループに「もっと適切にコントロールすれば、QOLはもっと上がるはず」「介護しなくて済むのに」というもどかしさがあったんです。

認知症の義母からは、「覚えていないから感謝はできない」と、長年言われ続けていましたが、ある日「あなたは良くしてくれるけど、プロじゃないからね」という言葉をかけられました。プロのサービスを拒否され、長年寄り添ってきた私にとって、その一言は自分自身のあり方を見つめ直す大きなきっかけになりました。

「家族としての経験に、確かな専門知識を掛け合わせることで、義母から感謝や満足の言葉をもらいたい」その願いが、私をプロの道へと突き動かしました。ケアマネジャーがサービスを入れても断るため、ケアマネジャーに変わりサービスを提案して生活を整え続けた家族介護の経験を、専門職としての確信に変えて世の中に伝えていきたい。その思いが、施設開設の原動力にもなりました。

本音は頑張っても義母には忘れられ、全否定されるので、「あなたの介護は正しい」と誰かに評価して欲しかったのです。夫へは、義母の介護を続ける交換条件としてデイサービス開業を提案しました。3人も子供がいる嫁として介護を放棄すれば、施設入所になると思いますが、本人は頑なに入所を拒否し、一人っ子の夫は義母の「一人で暮らせる！」を尊重したいと希望したため、施設の開業が決まりました。

夫と母の叔母に相談し、叔母には建物の新築、夫にはデイサービスの運営費の支援を依頼し、2016年「少子高齢社会の日本のために理想の介護を実装したい」と、世田谷区にリハサロン祖師谷を新築オープンしました。オープンと同時に第四子も出産し、産休なく施設をスタートしてから10年目です。義母は、看取りまで19年介護しましたが、デイサービスには行かず、認知症があっても一人暮らしを続けることができましたが...



続きはQRコードからアクセスしてください → → →

